

## 2024年 結核登録者情報調査年報集計結果について

当該年報は、2024年1月1日から同年12月31日の間に、新たに登録された結核患者及び潜在性結核感染症（LTBI）の者と、2024年12月31日現在に登録されているすべての登録者に関する状況について、感染症サーベイランスシステム上の結核登録者情報システムに全国の保健所から入力されたものを、取りまとめたものである。

～表ごとの解説～

### 【表1 諸外国と日本の結核罹患率について】

2024年の結核罹患率（人口10万対）は、前年と変わらず8.1となっており、結核低まん延国の水準である10.0以下を2024年も継続している。

日本の結核罹患率は、米国等他の先進国の水準に近づき、近隣アジア諸国に比べても低い水準にある。

### 【表2 結核罹患率の都道府県別おもな順位について】

都道府県別の結核罹患率（人口10万対）は、大阪府、徳島県、大分県、岐阜県、和歌山県の順に高く、山形県、長野県、山梨県、新潟県、北海道の順に低くなっている。大阪府の結核罹患率は12.8であり、最も低い山形県の結核罹患率4.1の3.1倍となっている。

### 【表3 結核の死亡数及び死亡率の年次推移について】

2024年の結核による死亡数は1,461人（概数）で、前年の1,587人に比べ126人減少している。死亡率（人口10万対）は1.2で前年から0.1減少している。

### 【表4 新登録結核患者数及び罹患率の年次推移について】

（1） 2024年に、新たに結核患者として登録された者の数（新登録結核患者数）は10,051人で、前年より45人（0.4%）減少している。減少率を見ると、2023年の前年からの減少率は1.4%（10,235人→10,096人）の減少であり、2024年の減少幅は1.0ポイント小さくなっている。（表4-1）

（2） 2024年の結核罹患率（人口10万対）は8.1となっており、結核

低まん延の水準である罹患率10.0以下の状態は2021年以降継続している。2023年の前年からの結核罹患率の減少は0.1(8.2→8.1)であったが、2024年は減少なしの前年と同率となっている。

(表4-1、図1)

- (3) 喀痰塗抹陽性肺結核の患者数は3,352人で、前年より172人(4.9%)減少している。(表4-2)
- (4) 喀痰塗抹陽性肺結核の罹患率(人口10万対)は2.7であり、前年の2.8より0.1減少している。喀痰塗抹陽性肺結核の患者が全体に占める割合は33.3%で、前年から1.6ポイントの減少となっている。(表4-2)

【表5 年次別・年齢階級別 新登録結核患者数および潜在性結核感染症新登録者数について】

- (1) 年齢階級別の新登録結核患者数は、15歳から39歳までの年齢層で増加がみられ、特に20~29歳では248人(23.8%)の増加となり、これは主に外国出生結核患者の増加によるものである。また、90歳以上で28人(2.0%)の増加となっている。0~14歳の小児結核は30人で前年から7人(18.9%)の減少となっている。40歳から89歳までの年齢層では減少となっており、減少数が最も大きかったのは70~79歳で190人(9.8%)の減少となっている。各年齢階級別で全体に占める割合は、80~89歳が28.4%と最も高くなっている。(表5-1)
- (2) 年齢階級別の喀痰塗抹陽性肺結核新登録患者数では、20~29歳で49人(20.4%)の増加となっている。0~14歳の小児喀痰塗抹陽性肺結核発生は2人となって前年から1人増加となっている。減少数が最も大きかった年齢階級は70~79歳で75人(10.8%)の減少となっている。各年齢階級別で全体に占める割合は、80~89歳が32.9%と最も高くなっている。(表5-2)
- (3) 小児結核患者(14歳以下)のうち、重症結核例である粟粒結核の発生は1人、結核性髄膜炎の発生はなしとなっている。粟粒結核は1歳の日本出生患者となっている。(表5-3)
- (4) 2024年に新たに登録された潜在性結核感染症の者の数は5,967人で、前年より934人(18.6%)の増加となっている。全ての年齢階級で増加しているが、最も増加数が大きかったのは70~79歳で203人(20.7%)の増加となっている。0~4歳は313人で、全

体の5.2%となっている。(表5-4)

- (5) 新登録結核患者数に対する潜在性結核感染症新登録者数の比は、全体では0.6と潜在性結核感染症新登録者数の方が少なくなっているが、14歳以下の年齢階級では4.1以上となっており、潜在性結核感染症新登録患者数の方が多くなっている。特に0～4歳は16.5となっている。また、40～49歳と50～59歳では、それぞれ1.2と1.1で、潜在性結核感染症新登録患者数の方が多くなっている。(表5-5)
- (6) 2024年の職業別にみた潜在性結核感染症新登録者数では、医療職(看護師・保健師、医師、その他の医療職)は1,044人で、割合は17.5%となっており、前年の16.8%から0.7ポイントの増加となっている。また、医療職、接客業、教員・保育士以外の常用勤労者では214人(24.3%)の増加となっている。最も登録患者数の増加が大きかったのは無職・その他で312人(15.3%)の増加となっている。乳幼児、保育園、幼稚園児・小中学生、高校生以上の生徒学生の登録者数は714人で、割合は12.0%となり、前年の12.9%から0.9ポイントの減少となっている。(表5-6)
- (7) 外国生まれ新登録結核患者数は1,980人で、前年から361人(22.3%)増加している。新登録結核患者における外国生まれの者の割合も19.7%と前年の16.0%から3.7ポイントの増加となっている。特に、20～29歳では外国生まれ新登録結核患者数は前年に比べて277人(31.3%)増加して1,161人となっており、同年齢階級での割合は90.0%と前年から5.2ポイントの増加となっている。30～39歳においても外国生まれ新登録結核患者数は73人(21.9%)増加して407人となり、割合は前年の61.6%から7.3ポイント増加して68.9%となっている。(表5-7)
- (8) 外国生まれ新登録結核患者のうち、入国5年以内の者は、前年の888人から278人(31.3%)増加し1,166人となっている。外国生まれ新登録結核患者のうちで占める割合も58.9%と半数以上は5年以内の入国の者となっている。最も患者数が多い20～29歳の年齢階級では、前年から240人(38.8%)増加して859人となっている。(表5-8)
- (9) 日本生まれ新登録結核患者数は、前年の8,206人から295人(3.6%)減少して7,911人となっている。年齢階級別では80～89歳の患者数が最も多く2,780人で日本生まれ新登録結核患者の35.1%となっている。15歳以上の年齢階級では、90歳以上で58人(4.3%)の増加となった以外では患者数は減少となっている。減少数が最も大きかったのは70～79歳で161人(8.7%)の減少となってい

る。(表5-9)

【表6 年次別・年齢階級別 結核罹患率について】

(1) 年齢階級別の結核罹患率は、70歳以上の高齢層で高くなっている。60～69歳の罹患率は5.3で全年齢の罹患率より低いが、70～79歳で10.9、80～89歳で28.3、90歳以上では51.1となっている。全体としては、外国生まれ患者の影響がある若年層を除いて、年齢階級別罹患率の年次推移は減少傾向となっている。

(表6-1)

(2) 菌喀痰塗抹陽性肺結核の罹患率も、同様に、高齢層ほど高くなっている。79歳以下の年齢階級は3.9以下だが、80～89歳で11.0、90歳以上では19.5となっている。(表6-2)

(3) 新登録結核患者のうち、日本生まれの患者の結核罹患率は、前年から0.2減少の6.6となっている。外国生まれ結核患者の影響が除かれた20～29歳の罹患率は1.1、30～39歳で1.4となっており、全体の罹患率からは低くなっている。(表6-3)

【表7 新登録結核患者数及び結核罹患率 都道府県別・年次推移について】

(1) 2024年の都道府県別の新登録結核患者数は、47都道府県のうち25で前年から増加している。新登録結核患者数が最も多いのは東京都の1,187人で、次いで大阪府の1,118人となっている。

(表7-1)

(2) 2024年の都道府県別の結核罹患率は、47都道府県のうち25で前年から増加している。結核低まん延の水準である罹患率が10.0以下の都道府県数は、41に達している。最も低い山形県の罹患率は4.1となっている。罹患率が最も高い大阪府は12.8で山形県の3.1倍となっている。(表7-2)

【表8 年末時結核登録者数及び有病率の年次推移について】

2024年末現在の結核登録者数は21,621人と、前年の22,426人より805人減少している。そのうち、活動性全結核の患者数は6,712人と、前年より82人減少している。また、2024年末の結核有病率は、前年の5.5から0.1減少し、5.4となっている。(表8)

【表9～表15 新登録結核患者の疫学的特徴について】

#### <再治療者>

2024年新登録結核患者のうちの再治療者は、前年の425人から16人減少して409人となっている。このうち、前回治療年が2010年～2019年の者は94人、2020年以降の者は156人となっている。前回治療年が2010年以降の者は再治療者のうち61.1%となっている。（表9）

#### <発見の遅れ>

(ア) 2024年の新登録肺結核患者のうち有症状の者の中で、受診が遅れた（症状発現から受診までの期間が2か月以上）患者の割合は、前年から0.8ポイント増加して20.7%となっている。このうち30～59歳の有症状菌喀痰塗抹陽性肺結核患者に限定すると、受診が遅れた患者の割合は37.0%で、前年から3.0ポイントの減少となっている。（表10-1）

(イ) 診断が遅れた（受診から結核の診断までの期間が1か月以上）患者の割合は、前年から0.1ポイント減少して22.4%となっている。このうち30～59歳の有症状菌喀痰塗抹陽性肺結核患者に限定すると、診断が遅れた患者の割合は17.2%で、前年から2.2ポイントの増加となっている。（表10-2）

(ウ) 発見が遅れた（症状発現から結核の診断までの期間が3か月以上）患者の割合は、0.5ポイント増加して21.8%となっている。このうち30～59歳の有症状菌喀痰塗抹陽性肺結核患者に限定すると、発見が遅れた患者の割合は31.8%で、前年から8.6ポイントの減少となっている。（表10-3）

#### <薬剤耐性>

2024年の新登録肺結核菌陽性結核患者\*6,423人のうち、薬剤感受性検査結果が判明した者（INH、RFP両剤感受性検査結果判明者）は4,514人で、割合は70.3%となっている。このうち、多剤耐性肺結核患者数（INH、RFP両剤耐性の者）は45人となっている。また、多剤耐性肺結核患者45人のうち、22人が外国出生患者となっている。新登録肺結核菌陽性結核患者で薬剤感受性検査結果が判明した者のうち多剤耐性結核割合は1.0%で前年から0.2ポイントの増加となっている。また、主要4剤（HRSE）全ての薬剤に対し感受性のある患者の割合は87.5%となっている。（表11）

\*: 2023年までは、新登録肺結核患者のうち結核菌培養検査での結果陽性患者。2024年は、新登録肺結核患者のうち治療歴なし、または治療歴不明では、結核菌培養検査またはその他の結核菌検査での結果陽性患

者。治療歴ありでは、結核菌培養検査での結果陽性患者。

#### <糖尿病、HIV合併>

2024年の新登録結核患者のうち、糖尿病合併患者は1,581人で、新登録結核患者の15.7%となっている。また、HIV検査を実施した患者は637人で、新登録結核患者の6.3%にあたり、このうちHIV陽性は29人で、新登録結核患者の0.3%となっている。（表12）

#### <医療従事者>

（ア） 2024年の新登録結核患者のうち、看護師・保健師からの登録患者は108人で、前年の91人から17人の増加となっている。新登録結核患者のうちの割合は1.1%と前年から0.2ポイントの増加となっている。年齢階級別の割合では、40～49歳が最も高く、同年齢階級新登録結核患者の5.8%となる27人の登録となっている。（表13-1）

（イ） 2024年の新登録結核患者のうち、医師の登録患者は20人で、前年より4人減少となっている。新登録結核患者中の割合は0.2%となっている。20歳から79歳の各年齢階級別新登録結核患者中割合は0.0～0.5%となっている。（表13-2）

（ウ） 2024年の新登録結核患者のうち、理学療法士、作業療法士、検査技師、放射線技師など、看護師・保健師・医師以外の者で医療機関に勤務する者の登録患者数は265人で、前年の204人から61人の増加となり、新登録結核患者のうちの割合は2.6%となっている。年齢階級別では、20～29歳が最も多く115人で、前年の65人から50人の増加となっており、同年齢階級新登録結核患者の8.9%となっている。（表13-3）

#### <無職臨時日雇など>

2024年の新登録結核患者のうち、登録時の年齢が20～59歳であり、登録時の職業が無職臨時日雇等であった者は497人で、前年の453人から44人増加している。新登録結核患者のうちの割合は16.1%で前年から0.1ポイントの増加となっている。年齢階級別での患者数は、55～59歳が最も多い118人で、同年齢階級の30.3%となっている。

また、男性の患者に占める無職臨時日雇等の者の年齢階級別割合は55～59歳が最も高く28.0%となっており、前年からは4.7ポイントの増加となっている。（表14-1、14-2）

#### < 治療成績 >

2023年の新登録結核患者の2024年末での治療成績は、治療成功が67.3%、死亡25.1%、失敗0.04%、脱落・中断1.8%、転出1.9%、治療中3.6%、不明0.2%となっている。60歳以上から年齢階級の上昇にともなって死亡割合が増加し、60～69歳で11.5%、70～79歳で23.3%、80～89歳で38.1%、90歳以上で57.2%となっている。死亡の影響が少ない59歳以下の年齢階級の治療成功割合は76.9%～90.2%となっている。脱落・中断は、患者数が少ない0～9歳で1人3.8%となっているが、これ以外では、50～59歳で最も高く2.2%となっている。（表15－1）

2023年の新登録再治療結核患者の2024年末での治療成績は、治療成功が71.5%、死亡18.9%、失敗0.0%、脱落・中断2.6%、転出2.8%、治療中4.2%、不明0.0%となっている。（表15－2）

2023年の潜在性結核感染症新登録者のうち治療を開始した者の2024年末での治療完了率は86.3%となっている。脱落・中断は7.0%となっているが、30歳以上で高くなる傾向がみられており、90歳以上では11.5%となっている。（表15－3）

2022年の新登録結核患者で多剤耐性結核患者の2024年末での治療成績は、対象37人のうち治療成功59.5%、死亡16.2%、失敗0.0%、脱落・中断2.7%、転出21.6%、治療中0.0%、不明0.0%となっている。（表15－4）

表 1. 諸外国と日本の結核罹患率

国名	罹患率	年次
米国	3.1	2023
デンマーク	3.6	2023
スウェーデン	3.7	2023
イタリア	4.4	2023
オランダ	4.5	2023
ドイツ	4.8	2023
カナダ	5.8	2023
オーストラリア	6.2	2023
英国	7.6	2023
フランス	8.3	2023
日本	8.1	2024
韓国	38	2023
シンガポール	42	2023
中国	52	2023
タイ	157	2023
ベトナム	182	2023
ネパール	229	2023
インドネシア	387	2023
ミャンマー	558	2023
フィリピン	643	2023

諸外国のデータは、下記より引用

World Health Organization "TB country, regional and global profiles"

[https://worldhealthorg.shinyapps.io/tb\\_profiles](https://worldhealthorg.shinyapps.io/tb_profiles)

2025年7月1日アクセス

日本以外はWHOによる推定罹患率

2024年の結核罹患率（人口10万対）は、前年と変わらず8.1となっており、結核低まん延国の水準である10.0以下を2024年も継続している。  
日本の結核罹患率は、米国等他の先進国の水準に近づき、近隣アジア諸国に比べても低い水準にある。

表 2. 結核罹患率の都道府県別おもな順位

	都道府県名	罹患率
罹患率の低い5都道府県	山形	4.1
	長野	4.2
	山梨	4.4
	新潟	4.9
	北海道	5.3
罹患率の高い5都道府県	大阪	12.8
	徳島	12.3
	大分	10.7
	岐阜	10.2
	和歌山	10.2

同率の場合は小数点2位以下で順位を決定

都道府県別の結核罹患率（人口10万対）は、大阪府、徳島県、大分県、岐阜県、和歌山県の順に高く、山形県、長野県、山梨県、新潟県、北海道の順に低くなっている。大阪府の結核罹患率は12.8であり、最も低い山形県の結核罹患率4.1の3.1倍となっている。

表3. 結核の死亡数及び死亡率の年次推移

年次	死亡順位	死亡数	死亡率
1950年	1位	121,769	146.4
1955年	5位	46,735	52.3
1960年	7位	31,959	34.2
1965年	7位	22,366	22.8
1970年	8位	15,899	15.4
1975年	10位	10,567	9.5
1980年	13位	6,439	5.5
1985年	16位	4,692	3.9
1990年	17位	3,664	3.0
1995年	23位	3,178	2.6
1996年	22位	2,858	2.3
1997年	22位	2,742	2.2
1998年	22位	2,795	2.2
1999年	21位	2,935	2.3
2000年	24位	2,656	2.1
2001年	25位	2,491	2.0
2002年	25位	2,317	1.8
2003年	25位	2,337	1.9
2004年	25位	2,330	1.8
2005年	25位	2,296	1.8
2006年	26位	2,269	1.8
2007年	27位	2,194	1.7
2008年	25位	2,220	1.8
2009年	24位	2,159	1.7
2010年	26位	2,129	1.7
2011年	25位	2,166	1.7
2012年	26位	2,110	1.7
2013年	26位	2,087	1.7
2014年	26位	2,100	1.7
2015年	29位	1,956	1.6
2016年	28位	1,893	1.5
2017年	30位	2,306	1.9
2018年	30位	2,204	1.8
2019年	31位	2,087	1.7
2020年	-	1,909	1.5
2021年	-	1,845	1.5
2022年	-	1,664	1.4
2023年	-	1,587	1.3
2024年	-	1,461	1.2

(注) 死亡率は人口10万対

人口動態統計より。2024年は概数。

2017年より死因統計に使用する分類を変更したことに伴い、死因を選択する統計上のルールも変更された。死因別死亡数の一部にみられる数値の大幅な変化には、これらの影響による変動が含まれている(人口動態統計月報年計(概数)の概況より)。

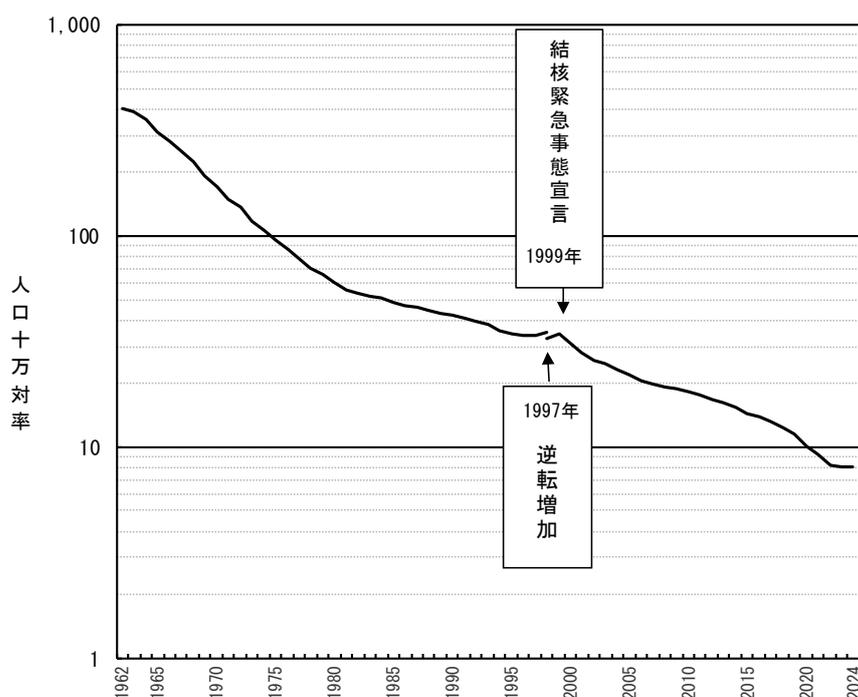
2020年以降は結核の死因の順位の公表はなかった。

2024年の結核による死亡数は1,461人(概数)で、前年の1,587人に比べ126人減少している。死亡率(人口10万対)は1.2で前年から0.1減少している。

表 4 - 1 . 新登録結核患者数及び罹患率の年次推移

区 分	全結核（新分類）				全結核（旧分類）			
	実数／前年比		罹患率(人口10万対) ／前年比		実数／前年比		罹患率(人口10万対) ／前年比	
1992年					48,956		39.3	
1993年					47,437	△1,519	38.0	△1.3
1994年					44,590	△2,847	35.7	△2.3
1995年					43,078	△1,512	34.3	△1.4
1996年					42,472	△ 606	33.7	△0.6
1997年					42,715	243	33.9	0.2
1998年	41,033		32.4		44,016	1,301	34.8	0.9
1999年	43,818	2,785	34.6	2.2				
2000年	39,384	△4,434	31.0	△3.6				
2001年	35,489	△3,895	27.9	△3.1				
2002年	32,828	△2,661	25.8	△2.1				
2003年	31,638	△1,190	24.8	△1.0				
2004年	29,736	△1,902	23.3	△1.5				
2005年	28,319	△1,417	22.2	△1.1				
2006年	26,384	△1,935	20.6	△1.6				
2007年	25,311	△1,073	19.8	△0.8				
2008年	24,760	△551	19.4	△0.4				
2009年	24,170	△590	19.0	△0.4				
2010年	23,261	△909	18.2	△0.8				
2011年	22,681	△580	17.7	△0.5				
2012年	21,283	△1,398	16.7	△1.0				
2013年	20,495	△788	16.1	△0.6				
2014年	19,615	△880	15.4	△0.7				
2015年	18,280	△1,335	14.4	△1.0				
2016年	17,625	△655	13.9	△0.5				
2017年	16,789	△836	13.3	△0.6				
2018年	15,590	△1,199	12.3	△1.0				
2019年	14,460	△1,130	11.5	△0.8				
2020年	12,739	△1,721	10.1	△1.4				
2021年	11,519	△1,220	9.2	△0.9				
2022年	10,235	△1,284	8.2	△1.0				
2023年	10,096	△139	8.1	△0.1				
2024年	10,051	△45	8.1	0.0				

図1. 結核罹患率の推移(全結核)



2024年に、新たに結核患者として登録された者の数（新登録結核患者数）は10,051人で、前年より45人（0.4%）減少している。減少率を見ると、2023年の前年からの減少率は1.4%（10,235人→10,096人）の減少であり、2024年の減少幅は1.0ポイント小さくなっている。

2024年の結核罹患率（人口10万対）は8.1となっており、結核低まん延の水準である罹患率10.0以下の状態は2021年以降継続している。2023年の前年からの結核罹患率の減少は0.1（8.2→8.1）であったが、2024年は減少なしの前年と同率となっている。

表4-2. 新登録結核患者及び罹患率の年次推移（喀痰塗抹陽性肺結核患者数、再掲）

区分	喀痰塗抹陽性肺結核（新分類） （再掲）		喀痰塗抹陽性 患者の割合 （%/全結核）	塗抹陽性肺結核（旧分類） （再掲）		塗抹陽性患者 の割合 （%/全結核）
	実数/前年比	罹患率 （人口10万対）/前年比		実数/前年比	罹患率 （人口10万対）/前年比	
1992年				15,540	12.5	31.7
1993年				15,210 △330	12.2 △0.3	32.1
1994年				14,777 △433	11.8 △0.4	33.1
1995年				15,103 326	12.0 0.2	35.1
1996年				15,035 △68	11.9 △0.1	35.4
1997年				15,967 932	12.7 0.8	37.4
1998年	13,405	10.6	32.7	16,294 327	12.9 0.2	37.0
1999年	14,482 1,077	11.4 0.8	33.1			
2000年	13,220 △1,262	10.4 △1.0	33.6			
2001年	12,656 △564	9.9 △0.5	35.7			
2002年	11,933 △723	9.4 △0.5	36.4			
2003年	11,857 △76	9.3 △0.1	37.5			
2004年	11,445 △412	9.0 △0.3	38.5			
2005年	11,318 △127	8.9 △0.1	40.0			
2006年	10,492 △826	8.2 △0.7	39.8			
2007年	10,204 △288	8.0 △0.2	40.3			
2008年	9,809 △395	7.7 △0.3	39.6			
2009年	9,675 △134	7.6 △0.1	40.0			
2010年	9,019 △656	7.0 △0.6	38.8			
2011年	8,654 △365	6.8 △0.2	38.2			
2012年	8,237 △417	6.5 △0.3	38.7			
2013年	8,119 △118	6.4 △0.1	39.6			
2014年	7,651 △468	6.0 △0.4	39.0			
2015年	7,131 △520	5.6 △0.4	39.0			
2016年	6,642 △489	5.2 △0.4	37.7			
2017年	6,359 △283	5.0 △0.2	37.9			
2018年	5,781 △578	4.6 △0.4	37.1			
2019年	5,231 △550	4.1 △0.5	36.2			
2020年	4,615 △616	3.7 △0.4	36.2			
2021年	4,127 △488	3.3 △0.4	35.8			
2022年	3,703 △424	3.0 △0.3	36.2			
2023年	3,524 △179	2.8 △0.2	34.9			
2024年	3,352 △172	2.7 △0.1	33.3			

喀痰塗抹陽性肺結核の患者数は3,352人で、前年より172人（4.9%）減少している。喀痰塗抹陽性肺結核の罹患率（人口10万対）は2.7であり、前年の2.8より0.1減少している。喀痰塗抹陽性肺結核の患者が全体に占める割合は33.3%で、前年から1.6ポイントの減少となっている。

表5-1. 年次別・年齢階級別 新登録結核患者数

( ) 内は構成比

区 分	2020年	2021年	2022年	2023年	2024年
総 数	12,739 (100.0)	11,519 (100.0)	10,235 (100.0)	10,096 (100.0)	10,051 (100.0)
0～4歳	27 (0.2)	14 (0.1)	21 (0.2)	20 (0.2)	19 (0.2)
5～9歳	9 (0.1)	5 (0.0)	8 (0.1)	6 (0.1)	4 (0.0)
10～14歳	16 (0.1)	10 (0.1)	6 (0.1)	11 (0.1)	7 (0.1)
15～19歳	75 (0.6)	98 (0.9)	71 (0.7)	91 (0.9)	96 (1.0)
20～29歳	1,027 (8.1)	930 (8.1)	777 (7.6)	1,042 (10.3)	1,290 (12.8)
30～39歳	686 (5.4)	597 (5.2)	503 (4.9)	542 (5.4)	591 (5.9)
40～49歳	741 (5.8)	640 (5.6)	546 (5.3)	487 (4.8)	468 (4.7)
50～59歳	924 (7.3)	841 (7.3)	733 (7.2)	762 (7.5)	735 (7.3)
60～69歳	1,262 (9.9)	1,070 (9.3)	921 (9.0)	863 (8.5)	793 (7.9)
70～79歳	2,547 (20.0)	2,241 (19.5)	2,066 (20.2)	1,943 (19.2)	1,753 (17.4)
80～89歳	3,686 (28.9)	3,440 (29.9)	3,159 (30.9)	2,920 (28.9)	2,858 (28.4)
90歳以上	1,739 (13.7)	1,633 (14.2)	1,424 (13.9)	1,409 (14.0)	1,437 (14.3)

年齢階級別の新登録結核患者数は、15歳から39歳までの年齢層で増加がみられ、特に20～29歳では248人（23.8%）の増加となり、これは主に外国出生結核患者の増加によるものである。また、90歳以上で28人（2.0%）の増加となっている。0～14歳の小児結核は30人で前年から7人（18.9%）の減少となっている。40歳から89歳までの年齢層では減少となっており、減少数が最も大きかったのは70～79歳で190人（9.8%）の減少となっている。各年齢階級別で全体に占める割合は、80～89歳が28.4%と最も高くなっている。

表5-2. 年次別・年齢階級別 喀痰塗抹陽性肺結核新登録患者数

( ) 内は構成比

区分	2020年	2021年	2022年	2023年	2024年
総数	4,615 (100.0)	4,127 (100.0)	3,703 (100.0)	3,524 (100.0)	3,352 (100.0)
0～4歳	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)
5～9歳	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)
10～14歳	3 (0.1)	2 (0.0)	1 (0.0)	1 (0.0)	2 (0.1)
15～19歳	20 (0.4)	35 (0.8)	17 (0.5)	19 (0.5)	19 (0.6)
20～29歳	255 (5.5)	202 (4.9)	198 (5.3)	240 (6.8)	289 (8.6)
30～39歳	194 (4.2)	169 (4.1)	136 (3.7)	139 (3.9)	116 (3.5)
40～49歳	226 (4.9)	182 (4.4)	169 (4.6)	146 (4.1)	132 (3.9)
50～59歳	307 (6.7)	291 (7.1)	264 (7.1)	233 (6.6)	240 (7.2)
60～69歳	489 (10.6)	379 (9.2)	317 (8.6)	296 (8.4)	280 (8.4)
70～79歳	925 (20.0)	794 (19.2)	756 (20.4)	696 (19.8)	621 (18.5)
80～89歳	1,454 (31.5)	1,374 (33.3)	1,241 (33.5)	1,163 (33.0)	1,104 (32.9)
90歳以上	742 (16.1)	699 (16.9)	603 (16.3)	591 (16.8)	549 (16.4)

年齢階級別の喀痰塗抹陽性肺結核新登録患者数では、20～29歳で49人（20.4%）の増加となっている。0～14歳の小児喀痰塗抹陽性肺結核発生は2人となって前年から1人増加となっている。減少数が最も大きかった年齢階級は70～79歳で75人（10.8%）の減少となっている。各年齢階級別で全体に占める割合は、80～89歳が32.9%と最も高くなっている。

表5-3. 年次別・年齢階級別 新登録小児結核中の粟粒結核および結核性髄膜炎患者数

区分	2020年			2021年			2022年			2023年			2024年		
	粟粒結核	結核性髄膜炎	(再掲) 粟粒結核、結核性髄膜炎併発												
合計	1	1	1	1	0	0	0	0	0	2	3	0	1	0	0
0～4歳	1	1	1	1	0	0	0	0	0	0	3	0	1	0	0
5～9歳	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
10～14歳	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0

合計は小児結核(0～14歳)の合計、粟粒結核と結核性髄膜炎の重複あり

2024年患者の詳細

粟粒結核 1歳、日本出生1名、BCG接種歴あり。

2023年患者の詳細

粟粒結核 11歳、日本出生1名、BCG接種歴不明。

11歳、外国出生1名、BCG接種歴なし。

結核性髄膜炎 0歳、出生国不明1名、BCG接種歴不明。

1歳、日本出生1名、BCG接種歴あり。

3歳、日本出生1名、BCG接種歴あり。

2021年患者の詳細

粟粒結核 0歳、日本出生1名、BCG接種歴不明。

2020年患者の詳細

粟粒結核、結核性髄膜炎併発0歳、日本出生1名、BCG接種歴不明。

小児結核患者（14歳以下）のうち、重症結核例である粟粒結核の発生は1人、結核性髄膜炎の発生はなしとなっている。粟粒結核は1歳の日本出生患者となっている。

表5-4. 年次別・年齢階級別 潜在性結核感染症（LTBI）新登録者数

（ ）内は構成比

区 分	2020年	2021年	2022年	2023年	2024年
総 数	5,575 (100.0)	5,140 (100.0)	5,025 (100.0)	5,033 (100.0)	5,967 (100.0)
0～4歳	365 (6.5)	281 (5.5)	279 (5.6)	283 (5.6)	313 (5.2)
5～9歳	58 (1.0)	35 (0.7)	42 (0.8)	35 (0.7)	36 (0.6)
10～14歳	36 (0.6)	28 (0.5)	33 (0.7)	25 (0.5)	29 (0.5)
15～19歳	73 (1.3)	51 (1.0)	62 (1.2)	79 (1.6)	80 (1.3)
20～29歳	514 (9.2)	431 (8.4)	462 (9.2)	664 (13.2)	769 (12.9)
30～39歳	454 (8.1)	414 (8.1)	350 (7.0)	396 (7.9)	510 (8.5)
40～49歳	641 (11.5)	547 (10.6)	520 (10.3)	437 (8.7)	558 (9.4)
50～59歳	760 (13.6)	703 (13.7)	668 (13.3)	633 (12.6)	787 (13.2)
60～69歳	906 (16.3)	747 (14.5)	666 (13.3)	642 (12.8)	689 (11.5)
70～79歳	1,033 (18.5)	1,112 (21.6)	1,093 (21.8)	982 (19.5)	1,185 (19.9)
80歳以上	735 (13.2)	791 (15.4)	850 (16.9)	857 (17.0)	1,011 (16.9)

2024年に新たに登録された潜在性結核感染症の者の数は5,967人で、前年より934人（18.6%）の増加となっている。全ての年齢階級で増加しているが、最も増加数が大きかったのは70～79歳で203人（20.7%）の増加となっている。0～4歳は313人で、全体の5.2%となっている。

表5-5. 年次別・年齢階級別 新登録結核患者数に対する潜在性結核感染症（LTBI）新登録者数の比

（比：潜在性結核感染症新登録者数／新登録結核患者数）

区 分	2020年	2021年	2022年	2023年	2024年
総 数	0.4	0.4	0.5	0.5	0.6
0～4歳	13.5	20.1	13.3	14.2	16.5
5～9歳	6.4	7.0	5.3	5.8	9.0
10～14歳	2.3	2.8	5.5	2.3	4.1
15～19歳	1.0	0.5	0.9	0.9	0.8
20～29歳	0.5	0.5	0.6	0.6	0.6
30～39歳	0.7	0.7	0.7	0.7	0.9
40～49歳	0.9	0.9	1.0	0.9	1.2
50～59歳	0.8	0.8	0.9	0.8	1.1
60～69歳	0.7	0.7	0.7	0.7	0.9
70～79歳	0.4	0.5	0.5	0.5	0.7
80歳以上	0.1	0.2	0.2	0.2	0.2

新登録結核患者数に対する潜在性結核感染症新登録者数の比は、全体では0.6と潜在性結核感染症新登録者数の方が少なくなっているが、14歳以下の年齢階級では4.1以上となっており、潜在性結核感染症新登録患者数の方が多くなっている。特に0～4歳は16.5となっている。また、40～49歳と50～59歳では、それぞれ1.2と1.1で、潜在性結核感染症新登録患者数の方が多くなっている。

表5-6. 年次別・職業別 潜在性結核感染症（LTBI）新登録者数

区 分	（ ）内は構成比					
	2020年	2021年	2022年	2023年	2024年	2024/2023年
総 数	5,575 (100.0)	5,140 (100.0)	5,025 (100.0)	5,033 (100.0)	5,967 (100.0)	1.2
看護師・保健師	480 (8.6)	412 (8.0)	343 (6.8)	324 (6.4)	369 (6.2)	1.1
医師	98 (1.8)	73 (1.4)	79 (1.6)	73 (1.5)	77 (1.3)	1.1
その他医療職・介護職	502 (9.0)	522 (10.2)	435 (8.7)	447 (8.9)	598 (10.0)	1.3
接客業等	142 (2.5)	102 (2.0)	111 (2.2)	123 (2.4)	136 (2.3)	1.1
教員・保育士	53 (1.0)	42 (0.8)	41 (0.8)	32 (0.6)	45 (0.8)	1.4
上記以外の常用勤労者	944 (16.9)	817 (15.9)	737 (14.7)	879 (17.5)	1,093 (18.3)	1.2
上記以外の臨時雇、日雇	143 (2.6)	155 (3.0)	173 (3.4)	131 (2.6)	159 (2.7)	1.2
上記以外の自営業・自由業	181 (3.2)	198 (3.9)	159 (3.2)	186 (3.7)	201 (3.4)	1.1
家事従事者	67 (1.2)	48 (0.9)	34 (0.7)	31 (0.6)	48 (0.8)	1.5
無職・その他	2,149 (38.5)	2,141 (41.7)	2,185 (43.5)	2,041 (40.6)	2,353 (39.4)	1.2
乳幼児	299 (5.4)	234 (4.6)	226 (4.5)	226 (4.5)	239 (4.0)	1.1
保育園、幼稚園児・小中学生	136 (2.4)	81 (1.6)	104 (2.1)	93 (1.8)	97 (1.6)	1.0
高校生以上の生徒学生等	246 (4.4)	151 (2.9)	233 (4.6)	331 (6.6)	378 (6.3)	1.1
不明	135 (2.4)	164 (3.2)	165 (3.3)	116 (2.3)	174 (2.9)	1.5

2024年の職業別にみた潜在性結核感染症新登録者数では、医療職（看護師・保健師、医師、その他の医療職）は1,044人で、割合は17.5%となっており、前年の16.8%から0.7ポイントの増加となっている。また、医療職、接客業、教員・保育士以外の常用勤労者では214人（24.3%）の増加となっている。最も登録患者数の増加が大きかったのは無職・その他で312人（15.3%）の増加となっている。乳幼児、保育園、幼稚園児・小中学生、高校生以上の生徒学生の登録者数は714人で、割合は12.0%となり、前年の12.9%から0.9ポイントの減少となっている。

表5-7. 年次別・年齢階級別 外国生まれ新登録結核患者数

( ) 内は新登録に占める割合)

区 分	2020年	2021年	2022年	2023年	2024年
総 数	1,411 (11.1)	1,313 (11.4)	1,214 (11.9)	1,619 (16.0)	1,980 (19.7)
0～4歳	2 (7.4)	1 (7.1)	6 (28.6)	3 (15.0)	1 (5.3)
5～9歳	4 (44.4)	2 (40.0)	1 (12.5)	3 (50.0)	0 (0.0)
10～14歳	3 (18.8)	3 (30.0)	1 (16.7)	2 (18.2)	6 (85.7)
15～19歳	40 (53.3)	40 (40.8)	41 (57.7)	69 (75.8)	76 (79.2)
20～29歳	732 (71.3)	675 (72.6)	602 (77.5)	884 (84.8)	1,161 (90.0)
30～39歳	330 (48.1)	276 (46.2)	273 (54.3)	334 (61.6)	407 (68.9)
40～49歳	141 (19.0)	135 (21.1)	125 (22.9)	112 (23.0)	142 (30.3)
50～59歳	83 (9.0)	94 (11.2)	84 (11.5)	86 (11.3)	97 (13.2)
60～69歳	44 (3.5)	43 (4.0)	33 (3.6)	57 (6.6)	46 (5.8)
70～79歳	19 (0.7)	16 (0.7)	19 (0.9)	30 (1.5)	20 (1.1)
80歳以上	13 (0.0)	28 (0.6)	29 (0.6)	39 (0.9)	24 (0.6)

外国生まれ新登録結核患者数は1,980人で、前年から361人(22.3%)増加している。新登録結核患者における外国生まれの者の割合も19.7%と前年の16.0%から3.7ポイントの増加となっている。特に、20～29歳では外国生まれ新登録結核患者数は前年に比べて277人(31.3%)増加して1,161人となっており、同年齢階級での割合は90.0%と前年から5.2ポイントの増加となっている。30～39歳においても外国生まれ新登録結核患者数は73人(21.9%)増加して407人となり、割合は前年の61.6%から7.3ポイント増加して68.9%となっている。

表5-8. 年次別・年齢階級別 外国生まれ新登録結核患者数（入国5年以内、再掲）

（ ）内は全外国生まれ新登録患者に占める割合

区 分	2020年	2021年	2022年	2023年	2024年
総 数	669 (47.4)	568 (43.3)	513 (42.3)	888 (54.8)	1,166 (58.9)
0～4歳	0 (0.0)	1 (100.0)	4 (66.7)	2 (66.7)	1 (100.0)
5～9歳	2 (50.0)	1 (50.0)	1 (100.0)	3 (100.0)	0 -
10～14歳	0 (0.0)	2 (66.7)	0 (0.0)	2 (100.0)	3 (50.0)
15～19歳	23 (57.5)	27 (67.5)	29 (70.7)	52 (75.4)	59 (77.6)
20～29歳	458 (62.6)	384 (56.9)	357 (59.3)	619 (70.0)	859 (74.0)
30～39歳	135 (40.9)	117 (42.4)	87 (31.9)	158 (47.3)	186 (45.7)
40～49歳	29 (20.6)	23 (17.0)	23 (18.4)	27 (24.1)	36 (25.4)
50～59歳	10 (12.0)	7 (7.4)	8 (9.5)	7 (8.1)	9 (9.3)
60～69歳	11 (25.0)	5 (11.6)	1 (3.0)	10 (17.5)	8 (17.4)
70～79歳	1 (5.3)	0 (0.0)	1 (5.3)	7 (23.3)	3 (15.0)
80歳以上	0 (0.0)	1 (3.6)	2 (6.9)	1 (2.6)	2 (8.3)

外国生まれ新登録結核患者のうち、入国5年以内の者は、前年の888人から278人（31.3%）増加し1,166人となっている。外国生まれ新登録結核患者のうちで占める割合も58.9%と半数以上は5年以内の入国の者となっている。最も患者数が多い20～29歳の年齢階級では、前年から240人（38.8%）増加して859人となっている。

表5-9. 年次別・年齢階級別 日本生まれ新登録結核患者数

( ) 内は構成比)

区 分	2020年	2021年	2022年	2023年	2024年
総 数	11,080 (100.0)	9,809 (100.0)	8,673 (100.0)	8,206 (100.0)	7,911
0～4歳	25 (0.2)	13 (0.1)	15 (0.2)	15 (0.2)	18 (0.2)
5～9歳	5 (0.0)	3 (0.0)	7 (0.1)	3 (0.0)	4 (0.1)
10～14歳	13 (0.1)	7 (0.1)	5 (0.1)	9 (0.1)	1 (0.0)
15～19歳	35 (0.3)	57 (0.6)	28 (0.3)	21 (0.3)	18 (0.2)
20～29歳	287 (2.6)	243 (2.5)	161 (1.9)	148 (1.8)	126 (1.6)
30～39歳	351 (3.2)	304 (3.1)	218 (2.5)	200 (2.4)	179 (2.3)
40～49歳	588 (5.3)	490 (5.0)	404 (4.7)	366 (4.5)	318 (4.0)
50～59歳	827 (7.5)	721 (7.4)	631 (7.3)	654 (8.0)	622 (7.9)
60～69歳	1,197 (10.8)	990 (10.1)	862 (9.9)	783 (9.5)	735 (9.3)
70～79歳	2,478 (22.4)	2,141 (21.8)	1,970 (22.7)	1,861 (22.7)	1,700 (21.5)
80～89歳	3,578 (32.3)	3,274 (33.4)	3,016 (34.8)	2,794 (34.0)	2,780 (35.1)
90歳以上	1,696 (15.3)	1,566 (16.0)	1,356 (15.6)	1,352 (16.5)	1,410 (17.8)

(注) 出生国については日本生れと外国生まれの他に出生国不明がある。

日本生まれ新登録結核患者数は、前年の8,206人から295人(3.6%)減少して7,911人となっている。年齢階級別では80～89歳の患者数が最も多く2,780人で日本生まれ新登録結核患者の35.1%となっている。15歳以上の年齢階級では、90歳以上で58人(4.3%)の増加となった以外では患者数は減少となっている。減少数が最も大きかったのは70～79歳で161人(8.7%)の減少となっている。

表6-1. 年次別・年齢階級別 結核罹患率

(人口10万対)

区 分	2020年	2021年	2022年	2023年	2024年
総 数	10.1	9.2	8.2	8.1	8.1
0～4歳	0.6	0.3	0.5	0.5	0.5
5～9歳	0.2	0.1	0.2	0.1	0.1
10～14歳	0.3	0.2	0.1	0.2	0.1
15～19歳	1.3	1.8	1.3	1.7	1.8
20～29歳	8.1	7.4	6.1	8.2	10.1
30～39歳	4.8	4.3	3.7	4.0	4.5
40～49歳	4.0	3.6	3.1	2.9	2.9
50～59歳	5.5	4.9	4.2	4.2	4.0
60～69歳	8.0	7.0	6.1	5.8	5.3
70～79歳	15.7	13.7	12.6	11.9	10.9
80～89歳	40.3	36.5	32.6	29.6	28.3
90歳以上	72.7	64.6	54.0	51.6	51.1

年齢階級別の結核罹患率は、70歳以上の高齢層で高くなっている。60～69歳の罹患率は5.3で全年齢の罹患率より低いが、70～79歳で10.9、80～89歳で28.3、90歳以上では51.1となっている。全体としては、外国生まれ患者の影響がある若年層を除いて、年齢階級別罹患率の年次推移は減少傾向となっている。

表 6 - 2. 年次別・年齢階級別 結核罹患率（喀痰塗抹陽性肺結核患者、再掲）

区 分	2020年	2021年	2022年	2023年	2024年
総 数	3.7	3.3	3.0	2.8	2.7
0～4歳	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
5～9歳	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
10～14歳	0.1	0.0	0.0	0.0	0.0
15～19歳	0.4	0.6	0.3	0.3	0.3
20～29歳	2.0	1.6	1.6	1.9	2.3
30～39歳	1.4	1.2	1.0	1.0	0.9
40～49歳	1.2	1.0	1.0	0.9	0.8
50～59歳	1.8	1.7	1.5	1.3	1.3
60～69歳	3.1	2.5	2.1	2.0	1.9
70～79歳	5.7	4.8	4.6	4.3	3.9
80～89歳	15.9	14.6	12.8	11.8	11.0
90歳以上	31.0	27.7	22.9	21.6	19.5

菌喀痰塗抹陽性肺結核の罹患率も、同様に、高齢層ほど高くなっている。79歳以下の年齢階級は3.9以下だが、80～89歳で11.0、90歳以上では19.5となっている。

表 6-3. 年次別・年齢階級別 結核罹患率（日本生れ新登録結核患者、再掲）

区 分	2020年	2021年	2022年	2023年	2024年
総 数	9.0	8.0	7.1	6.8	6.6
0～4歳	0.6	0.3	0.4	0.4	0.5
5～9歳	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1
10～14歳	0.2	0.1	0.1	0.2	0.0
15～19歳	0.6	1.0	0.5	0.4	0.3
20～29歳	2.4	2.1	1.4	1.3	1.1
30～39歳	2.6	2.3	1.7	1.6	1.4
40～49歳	3.3	2.8	2.4	2.2	2.0
50～59歳	5.0	4.3	3.7	3.7	3.5
60～69歳	7.7	6.6	5.8	5.3	5.0
70～79歳	15.3	13.1	12.1	11.5	10.6
80～89歳	39.3	34.8	31.2	28.4	27.7
90歳以上	71.1	62.1	51.5	49.6	50.3

新登録結核患者のうち、日本生まれの患者の結核罹患率は、前年から0.2減少の6.6となっている。外国生まれ結核患者の影響が除かれた20～29歳の罹患率は1.1、30～39歳で1.4となっており、全体の罹患率からは低くなっている。

表7-1. 新登録結核患者数 都道府県別・年次推移

都道府県名	新登録結核患者数(人)					備考	(再掲) 菌喀痰塗抹陽性肺結核患者数(人)				
	2020年	2021年	2022年	2023年	2024年		2020年	2021年	2022年	2023年	2024年
全国	12,739	11,519	10,235	10,096	10,051		4,615	4,127	3,703	3,524	3,352
北海道	380	335	281	297	268		153	126	101	102	75
青森	120	105	90	70	77	↑	63	46	33	24	31
岩手	74	61	60	42	71	↑	30	31	22	19	24
宮城	135	152	127	117	130	↑	57	55	61	41	43
秋田	63	46	52	48	62	↑	26	26	18	20	22
山形	70	60	48	45	41		30	25	19	17	10
福島	122	101	82	93	94	↑	40	35	34	32	39
茨城	287	221	248	239	212		87	69	78	69	74
栃木	179	151	112	135	127		55	60	50	52	47
群馬	152	123	112	122	133	↑	45	31	40	31	40
埼玉	675	616	557	581	541		239	214	233	200	182
千葉	611	553	494	467	499	↑	222	184	153	155	174
東京	1,589	1,429	1,193	1,190	1,187		597	545	453	451	377
神奈川	808	748	701	655	602		303	257	225	249	195
新潟	147	144	105	128	103		37	59	30	31	34
富山	71	84	65	77	66		26	26	22	28	25
石川	99	97	79	70	84	↑	30	39	31	23	23
福井	63	51	42	42	54	↑	19	13	9	9	15
山梨	48	35	51	32	35	↑	12	10	15	9	10
長野	138	104	105	104	84		52	31	41	40	32
岐阜	265	214	196	176	196	↑	82	70	75	67	54
静岡	348	291	241	281	249		114	100	87	90	70
愛知	924	880	724	673	692	↑	308	283	246	223	212
三重	175	148	139	152	163	↑	54	58	54	52	58
滋賀	122	117	116	93	93		44	28	27	29	23
京都	292	271	239	250	254	↑	112	94	88	69	93
大阪	1,400	1,171	1,118	1,145	1,118		550	473	454	411	447
兵庫	641	586	530	550	513		246	222	187	207	172
奈良	133	121	122	140	108		51	51	53	61	46
和歌山	110	89	94	75	90	↑	55	42	32	27	31
鳥取	34	38	40	33	29		11	14	13	10	9
島根	66	54	67	48	41		26	18	27	14	14
岡山	153	183	148	136	147	↑	50	60	59	63	45
広島	254	239	195	214	201		103	91	77	66	64
山口	141	119	116	114	116	↑	40	29	45	38	34
徳島	97	92	75	52	84	↑	35	34	20	12	23
香川	95	83	80	64	80	↑	22	26	34	27	17
愛媛	122	110	98	86	90	↑	54	48	46	32	29
高知	49	48	54	42	46	↑	25	19	22	19	19
福岡	512	535	437	429	501	↑	163	189	141	139	163
佐賀	87	72	59	70	61		36	28	15	25	22
長崎	163	175	137	124	120		47	49	39	32	33
熊本	170	126	146	117	121	↑	58	39	46	44	48
大分	107	117	119	134	116		50	49	47	50	45
宮崎	96	88	84	64	68	↑	41	25	30	19	27
鹿児島	166	161	133	152	143		53	56	38	60	38
沖縄	186	175	124	128	141	↑	62	50	33	36	44
指定都市(再掲)											
札幌	134	111	92	93	80		46	49	27	33	26
仙台	66	86	65	51	65	↑	25	28	36	13	19
さいたま	109	107	96	113	98		37	36	42	37	30
千葉	93	94	95	68	84	↑	43	35	27	32	35
横浜	357	335	288	301	266		126	119	102	108	83
川崎	153	138	127	132	107		58	46	32	48	38
相模原	53	47	48	50	42		23	23	20	28	20
新潟	52	45	43	43	42		17	22	14	11	17
静岡	74	63	54	57	56		31	19	17	17	22
浜松	96	73	60	57	59	↑	32	19	19	17	7
名古屋	378	336	283	262	263	↑	140	119	104	91	90
京都	173	164	144	154	152		68	56	59	40	48
大阪	578	512	480	508	487		234	203	181	170	186
堺	134	119	119	104	120	↑	58	50	54	41	49
神戸	213	201	148	170	151		81	77	42	68	48
岡山	59	81	45	51	66	↑	16	21	22	26	18
広島	94	86	91	84	77		38	37	38	28	25
北九州	123	142	103	95	113	↑	31	45	29	26	37
福岡	149	138	143	140	176	↑	50	51	47	41	62
熊本	64	46	55	44	45	↑	23	14	19	18	17
東京都特別区	1,257	1,071	926	914	890		470	408	352	337	275

(注)備考欄において「↑」は2024年の新登録数が2023年を上回ったものを表す。

2024年の都道府県別の新登録結核患者数は、47都道府県のうち25で前年から増加している。新登録結核患者数が最も多いのは東京都の1,187人で、次いで大阪府の1,118人となっている。

表7-2. 結核罹患率 都道府県別・年次推移

都道府県名	罹患率（人口10万対）					備考	（再掲）菌喀痰塗抹陽性肺結核罹患率（人口10万対）				
	2020年	2021年	2022年	2023年	2024年		2020年	2021年	2022年	2023年	2024年
全国	10.1	9.2	8.2	8.1	8.1		3.7	3.3	3.0	2.8	2.7
北海道	7.3	6.5	5.5	5.8	5.3	○5	2.9	2.4	2.0	2.0	1.5
青森	9.7	8.6	7.5	5.9	6.6	↑	5.1	3.8	2.7	2.0	2.7
岩手	6.1	5.1	5.1	3.6	6.2	↑	2.5	2.6	1.9	1.6	2.1
宮城	5.9	6.6	5.6	5.2	5.8	↑	2.5	2.4	2.7	1.8	1.9
秋田	6.6	4.9	5.6	5.3	6.9	↑	2.7	2.8	1.9	2.2	2.5
山形	6.6	5.7	4.6	4.4	4.1	○1	2.8	2.4	1.8	1.7	1.0
福島	6.7	5.6	4.6	5.3	5.4	↑	2.2	1.9	1.9	1.8	2.2
茨城	10.0	7.7	8.7	8.5	7.6		3.0	2.4	2.7	2.4	2.6
栃木	9.3	7.9	5.9	7.1	6.7		2.8	3.1	2.6	2.7	2.5
群馬	7.8	6.4	5.9	6.4	7.0	↑	2.3	1.6	2.1	1.6	2.1
埼玉	9.2	8.4	7.6	7.9	7.4		3.3	2.9	3.2	2.7	2.5
千葉	9.7	8.8	7.9	7.5	8.0	↑	3.5	2.9	2.4	2.5	2.8
東京	11.3	10.2	8.5	8.4	8.4		4.2	3.9	3.2	3.2	2.7
神奈川	8.7	8.1	7.6	7.1	6.5		3.3	2.8	2.4	2.7	2.1
新潟	6.7	6.6	4.9	6.0	4.9	○4	1.7	2.7	1.4	1.5	1.6
富山	6.9	8.2	6.4	7.6	6.6		2.5	2.5	2.2	2.8	2.5
石川	8.7	8.6	7.1	6.3	7.7	↑	2.6	3.5	2.8	2.1	2.1
福井	8.2	6.7	5.6	5.6	7.3	↑	2.5	1.7	1.2	1.2	2.0
山梨	5.9	4.3	6.4	4.0	4.4	↑○3	1.5	1.2	1.9	1.1	1.3
長野	6.7	5.1	5.2	5.2	4.2	○2	2.5	1.5	2.0	2.0	1.6
岐阜	13.4	10.9	10.1	9.1	10.2	↑△4	4.1	3.6	3.9	3.5	2.8
静岡	9.6	8.1	6.7	7.9	7.1		3.1	2.8	2.4	2.5	2.0
愛知	12.3	11.7	9.7	9.0	9.3	↑	4.1	3.8	3.3	3.0	2.8
三重	9.9	8.4	8.0	8.8	9.5	↑	3.1	3.3	3.1	3.0	3.4
滋賀	8.6	8.3	8.2	6.6	6.6		3.1	2.0	1.9	2.1	1.6
京都	11.3	10.6	9.4	9.9	10.1	↑	4.3	3.7	3.5	2.7	3.7
大阪	15.8	13.3	12.7	13.1	12.8	△1	6.2	5.4	5.2	4.7	5.1
兵庫	11.7	10.8	9.8	10.2	9.6		4.5	4.1	3.5	3.9	3.2
奈良	10.0	9.2	9.3	10.8	8.4		3.9	3.9	4.1	4.7	3.6
和歌山	11.9	9.7	10.4	8.4	10.2	↑△5	6.0	4.6	3.5	3.0	3.5
鳥取	6.1	6.9	7.4	6.1	5.5		2.0	2.6	2.4	1.9	1.7
島根	9.8	8.1	10.2	7.4	6.4		3.9	2.7	4.1	2.2	2.2
岡山	8.1	9.8	7.9	7.4	8.0	↑	2.6	3.2	3.2	3.4	2.5
広島	9.1	8.6	7.1	7.8	7.4		3.7	3.3	2.8	2.4	2.4
山口	10.5	9.0	8.8	8.8	9.1	↑	3.0	2.2	3.4	2.9	2.7
徳島	13.5	12.9	10.7	7.5	12.3	↑△2	4.9	4.8	2.8	1.7	3.4
香川	10.0	8.8	8.6	6.9	8.7	↑	2.3	2.8	3.6	2.9	1.9
愛媛	9.1	8.3	7.5	6.7	7.1	↑	4.0	3.6	3.5	2.5	2.3
高知	7.1	7.0	8.0	6.3	7.0	↑	3.6	2.8	3.3	2.9	2.9
福岡	10.0	10.4	8.5	8.4	9.8	↑	3.2	3.7	2.8	2.7	3.2
佐賀	10.7	8.9	7.4	8.8	7.7		4.4	3.5	1.9	3.1	2.8
長崎	12.4	13.5	10.7	9.8	9.6		3.6	3.8	3.0	2.5	2.6
熊本	9.8	7.3	8.5	6.8	7.1	↑	3.3	2.3	2.7	2.6	2.8
大分	9.5	10.5	10.8	12.2	10.7	△3	4.4	4.4	4.2	4.6	4.1
宮崎	9.0	8.3	8.0	6.1	6.6	↑	3.8	2.4	2.9	1.8	2.6
鹿児島	10.5	10.2	8.5	9.8	9.3		3.3	3.6	2.4	3.9	2.5
沖縄	12.7	11.9	8.4	8.7	9.6	↑	4.2	3.4	2.2	2.5	3.0
指定都市（再掲）											
札幌	6.8	5.6	4.7	4.7	4.1		2.3	2.5	1.4	1.7	1.3
仙台	6.0	7.8	5.9	4.6	5.9	↑	2.3	2.6	3.3	1.2	1.7
さいたま	8.2	8.0	7.2	8.4	7.3		2.8	2.7	3.1	2.8	2.2
千葉	9.5	9.6	9.7	6.9	8.5	↑	4.4	3.6	2.8	3.3	3.6
横浜	9.5	8.9	7.6	8.0	7.1		3.3	3.2	2.7	2.9	2.2
川崎	9.9	9.0	8.2	8.5	6.9		3.8	3.0	2.1	3.1	2.4
相模原	7.3	6.5	6.6	6.9	5.8		3.2	3.2	2.8	3.9	2.8
新潟	6.6	5.7	5.5	5.6	5.5		2.2	2.8	1.8	1.4	2.2
静岡	10.7	9.1	7.9	8.4	8.3		4.5	2.8	2.5	2.5	3.3
浜松	12.1	9.2	7.6	7.3	7.6	↑	4.0	2.4	2.4	2.2	0.9
名古屋	16.2	14.4	12.2	11.3	11.3		6.0	5.1	4.5	3.9	3.9
京都	11.8	11.3	9.9	10.7	10.6		4.6	3.9	4.1	2.8	3.3
大阪	21.0	18.6	17.4	18.3	17.4		8.5	7.4	6.6	6.1	6.7
堺	16.2	14.5	14.6	12.8	14.9	↑	7.0	6.1	6.6	5.0	6.1
神戸	14.0	13.2	9.8	11.3	10.1		5.3	5.1	2.8	4.5	3.2
岡山	8.1	11.2	6.3	7.1	9.3	↑	2.2	2.9	3.1	3.6	2.5
広島	7.8	7.2	7.6	7.1	6.5		3.2	3.1	3.2	2.4	2.1
北九州	13.1	15.2	11.1	10.4	12.4	↑	3.3	4.8	3.1	2.8	4.1
福岡	9.2	8.5	8.8	8.5	10.6	↑	3.1	3.1	2.9	2.5	3.7
熊本	8.7	6.2	7.5	6.0	6.1	↑	3.1	1.9	2.6	2.4	2.3
東京都特別区	12.9	11.1	9.5	9.3	9.0		4.8	4.2	3.6	3.4	2.8

注1) 備考欄において「↑」は2024年の罹患率が2023年を上回ったもの、「○1」は罹患率下位1位を、「△1」は罹患率上位1位を表す。  
同率の場合は小数点2位以下で順位を決定

2024年の都道府県別の結核罹患率は、47都道府県のうち25で前年から増加している。結核低まん延の水準である罹患率が10.0以下の都道府県数は、41に達している。最も低い山形県の罹患率は4.1となっている。罹患率が最も高い大阪府は12.8で山形県の3.1倍となっている。

表 8. 年末時結核登録者数及び有病率の年次推移

区 分	総数／前年比		活 動 性 全 結 核			
			患者数／前年比		有病率(人口10万対) ／前年比	
1994年	181,470	△10,114	70,781	△5,894	56.6	△4.9
1995年	168,581	△12,889	65,167	△5,614	51.9	△4.7
1996年	132,958	△35,623	59,760	△5,407	47.5	△4.4
1997年	121,762	△11,196	55,409	△4,351	43.9	△3.6
1998年	107,058		49,205		38.9	
1999年	104,813	△2,245	48,888	△317	38.6	△0.3
2000年	99,481	△5,332	41,971	△6,917	33.1	△5.5
2001年	91,395	△8,086	36,288	△5,683	28.5	△4.6
2002年	82,974	△8,421	32,396	△3,892	25.4	△3.1
2003年	77,211	△5,763	29,717	△2,679	23.3	△2.1
2004年	72,079	△5,132	26,945	△2,772	21.1	△2.2
2005年	68,508	△3,571	23,969	△2,976	18.8	△2.3
2006年	65,695	△2,813	21,976	△1,993	17.2	△1.6
2007年	63,556	△2,139	20,637	△1,339	16.2	△1.0
2008年	62,244	△1,312	20,021	△616	15.7	△0.5
2009年	59,573	△2,671	18,915	△1,106	14.8	△0.9
2010年	55,573	△4,000	17,927	△988	14.0	△0.8
2011年	55,196	△377	17,264	△663	13.5	△0.5
2012年	52,173	△3,023	14,858	△2,406	11.7	△1.8
2013年	49,814	△2,359	13,957	△901	11.0	△0.7
2014年	47,845	△1,969	13,513	△444	10.6	△0.4
2015年	44,888	△2,957	12,534	△979	9.9	△0.7
2016年	42,299	△2,589	11,717	△817	9.2	△0.7
2017年	39,670	△2,629	11,097	△620	8.8	△0.4
2018年	37,134	△2,536	10,448	△649	8.3	△0.5
2019年	34,523	△2,611	9,695	△753	7.7	△0.6
2020年	31,551	△2,972	8,640	△1,055	6.8	△0.9
2021年	27,754	△3,797	7,744	△896	6.2	△0.6
2022年	24,555	△3,199	6,782	△962	5.4	△0.8
2023年	22,426	△2,129	6,794	▲12	5.5	▲0.1
2024年	21,621	△805	6,712	△82	5.4	△0.1

1998年以降は新分類

2024年末現在の結核登録者数は21,621人と、前年の22,426人より805人減少している。そのうち、活動性全結核の患者数は6,712人と、前年より82人減少している。また、2024年末の結核有病率は、前年の5.5から0.1減少し、5.4となっている。

表9. 年次別 前回治療開始年代別再治療者数（割合）

前回治療開始年	2020年登録者	2021年登録者	2022年登録者	2023年登録者	2024年登録者
総数	546 (100.0)	460 (100.0)	384 (100.0)	425 (100.0)	409 (100.0)
1940年代以前	17 (3.1)	15 (3.3)	12 (3.1)	10 (2.4)	7 (1.7)
1950年代	65 (11.9)	58 (12.6)	31 (8.1)	47 (11.1)	47 (11.5)
1960年代	31 (5.7)	20 (4.3)	13 (3.4)	21 (4.9)	20 (4.9)
1970年代	16 (2.9)	16 (3.5)	18 (4.7)	8 (1.9)	13 (3.2)
1980年代	12 (2.2)	8 (1.7)	8 (2.1)	9 (2.1)	16 (3.9)
1990年代	25 (4.6)	20 (4.3)	18 (4.7)	15 (3.5)	14 (3.4)
2000年代	42 (7.7)	44 (9.6)	37 (9.6)	50 (11.8)	42 (10.3)
2010年代	305 (55.9)	195 (42.4)	122 (31.8)	120 (28.2)	94 (23.0)
2020年以降	33 (6.0)	84 (18.3)	125 (32.6)	145 (34.1)	156 (38.1)
（再掲）2010年以降の再治療者数					
2010年	7 (2.1)	9 (3.2)	5 (2.0)	7 (2.6)	3 (1.2)
2011年	14 (4.1)	9 (3.2)	4 (1.6)	4 (1.5)	6 (2.4)
2012年	17 (5.0)	8 (2.9)	16 (6.5)	11 (4.2)	5 (2.0)
2013年	9 (2.7)	15 (5.4)	9 (3.6)	12 (4.5)	6 (2.4)
2014年	13 (3.8)	12 (4.3)	5 (2.0)	9 (3.4)	10 (4.0)
2015年	21 (6.2)	14 (5.0)	11 (4.5)	14 (5.3)	9 (3.6)
2016年	32 (9.5)	10 (3.6)	12 (4.9)	12 (4.5)	6 (2.4)
2017年	42 (12.4)	21 (7.5)	17 (6.9)	13 (4.9)	15 (6.0)
2018年	75 (22.2)	34 (12.2)	13 (5.3)	16 (6.0)	11 (4.4)
2019年	75 (22.2)	63 (22.6)	30 (12.1)	22 (8.3)	23 (9.2)
2020年	33 (9.8)	57 (20.4)	38 (15.4)	34 (12.8)	15 (6.0)
2021年		27 (9.7)	58 (23.5)	47 (17.7)	27 (10.8)
2022年			29 (11.7)	52 (19.6)	42 (16.8)
2023年				12 (4.5)	43 (17.2)
2024年					29 (11.6)

（注）前回治療開始年は、登録情報あるいは本人・家族等への問診による。  
 対象は 2020～2024年新登録者で治療歴が再治療の患者。前回治療年が今回の登録年に近い者には、「登録中の再登録」による者が多いと推察される。

2024年新登録結核患者のうちの再治療者は、前年の425人から16人減少して409人となっている。このうち、前回治療年が2010年～2019年の者は94人、2020年以降の者は156人となっている。前回治療年が2010年以降の者は再治療者のうち61.1%となっている。

表10-1. 発病から初診までの期間が2か月以上の割合  
有症状肺結核

	発病～初診までの期間が 2か月以上の割合(%)
2004年	18.8
2005年	18.2
2006年	19.4
2007年	18.0
2008年	18.2
2009年	17.9
2010年	18.3
2011年	18.6
2012年	18.7
2013年	18.1
2014年	18.8
2015年	20.0
2016年	19.7
2017年	20.8
2018年	20.6
2019年	20.4
2020年	19.1
2021年	20.8
2022年	19.9
2023年	19.9
2024年	20.7

(再掲) 30-59歳有症状菌喀痰塗抹陽性肺結核

	発病～初診までの期間が 2か月以上の割合(%)
2004年	31.6
2005年	31.4
2006年	33.2
2007年	32.1
2008年	32.3
2009年	30.7
2010年	32.6
2011年	32.9
2012年	33.7
2013年	31.5
2014年	38.0
2015年	37.1
2016年	33.3
2017年	35.0
2018年	34.5
2019年	34.4
2020年	27.5
2021年	38.9
2022年	32.4
2023年	40.0
2024年	37.0

2024年の新登録肺結核患者のうち有症状の者の中で、受診が遅れた（症状発現から受診までの期間が2か月以上）患者の割合は、前年から0.8ポイント増加して20.7%となっている。このうち30～59歳の有症状菌喀痰塗抹陽性肺結核患者に限定すると、受診が遅れた患者の割合は37.0%で、前年から3.0ポイントの減少となっている。

表10-2. 初診から診断（登録）までの期間が1か月以上の割合

有症状肺結核

	初診～診断までの期間が 1か月以上の割合(%)
2004年	25.0
2005年	25.7
2006年	24.3
2007年	21.7
2008年	19.9
2009年	20.4
2010年	22.6
2011年	22.7
2012年	22.0
2013年	22.1
2014年	21.6
2015年	21.5
2016年	22.0
2017年	21.7
2018年	22.0
2019年	21.9
2020年	20.9
2021年	23.1
2022年	21.5
2023年	22.5
2024年	22.4

(再掲) 30-59歳有症状菌喀痰塗抹陽性肺結核

	初診～診断までの期間が 1か月以上の割合(%)
2004年	14.1
2005年	14.6
2006年	13.9
2007年	13.2
2008年	10.6
2009年	10.9
2010年	13.6
2011年	14.8
2012年	15.0
2013年	13.9
2014年	13.7
2015年	13.6
2016年	16.1
2017年	14.7
2018年	15.7
2019年	15.2
2020年	14.3
2021年	16.5
2022年	13.5
2023年	15.0
2024年	17.2

2004年～2006年までは初診から登録までの期間、2007年以降は初診から診断までの期間

診断が遅れた（受診から結核の診断までの期間が1か月以上）患者の割合は、前年から0.1ポイント減少して22.4%となっている。このうち30～59歳の有症状菌喀痰塗抹陽性肺結核患者に限定すると、診断が遅れた患者の割合は17.2%で、前年から2.2ポイントの増加となっている。

表10-3. 発病から診断（登録）までの期間が3か月以上の割合

有症状肺結核

	発病～診断までの期間が 3か月以上の割合(%)
2004年	20.3
2005年	19.7
2006年	20.7
2007年	18.5
2008年	18.1
2009年	18.2
2010年	19.6
2011年	19.4
2012年	19.6
2013年	18.7
2014年	19.0
2015年	20.4
2016年	19.6
2017年	21.2
2018年	20.7
2019年	21.7
2020年	19.7
2021年	22.0
2022年	20.5
2023年	21.3
2024年	21.8

(再掲) 30-59歳有症状菌喀痰塗抹陽性肺結核

	発病～診断までの期間が 3か月以上の割合(%)
2004年	28.2
2005年	28.7
2006年	29.5
2007年	26.9
2008年	27.0
2009年	26.9
2010年	28.4
2011年	29.8
2012年	30.5
2013年	29.0
2014年	32.9
2015年	35.5
2016年	32.6
2017年	33.6
2018年	30.6
2019年	33.3
2020年	27.6
2021年	36.1
2022年	29.5
2023年	40.4
2024年	31.8

2004年～2006年までは発病から登録までの期間、2007年以降は発病から診断までの期間

発見が遅れた（症状発現から結核の診断までの期間が3か月以上）患者の割合は、0.5ポイント増加して21.8%となっている。このうち30～59歳の有症状菌喀痰塗抹陽性肺結核患者に限定すると、発見が遅れた患者の割合は31.8%で、前年から8.6ポイントの減少となっている。

表11. 年次別 新登録肺結核菌陽性結核患者の薬剤感受性検査結果

( )内は構成比

区 分	2020年	2021年	2022年	2023年	2024年
新登録肺結核患者数	9,446	8,413	7,454	7,495	7,456
菌陽性患者数*	6,645 (100.0)	5,902 (100.0)	5,231 (100.0)	5,515 (100.0)	6,423 (100.0)
INH, RFP両剤耐性	46 (0.7)	41 (0.7)	26 (0.5)	35 (0.6)	45 (0.7)
(再掲) INH, RFP両剤耐性のうち外国出生患者	23	19	14	19	22
上記以外でINH耐性含む	251 (3.8)	180 (3.0)	174 (3.3)	219 (4.0)	219 (3.4)
上記以外でRFP耐性含む	14 (0.2)	15 (0.3)	15 (0.3)	17 (0.3)	10 (0.2)
その他耐性	268 (4.0)	239 (4.0)	223 (4.3)	231 (4.2)	208 (3.2)
HRSEすべてに感受性	4,583 (69.0)	4,038 (68.4)	3,617 (69.1)	3,938 (71.4)	3,949 (61.5)
HR感受性その他不明	47 (0.7)	38 (0.6)	31 (0.6)	86 (1.6)	83 (1.3)
未実施・他・不明	1,436 (21.6)	1,351 (22.9)	1,145 (21.9)	989 (17.9)	1,909 (29.7)
(再掲)薬剤感受性検査結果判明者	5,209 (78.4)	4,551 (77.1)	4,086 (78.1)	4,526 (82.1)	4,514 (70.3)
(再掲) 薬剤感受性検査結果判明者					
菌陽性患者数*	5,209 (100.0)	4,551 (100.0)	4,086 (100.0)	4,526 (100.0)	4,514 (100.0)
INH, RFP両剤耐性	46 (0.9)	41 (0.9)	26 (0.6)	35 (0.8)	45 (1.0)
上記以外でINH耐性含む	251 (4.8)	180 (4.0)	174 (4.3)	219 (4.8)	219 (4.9)
上記以外でRFP耐性含む	14 (0.3)	15 (0.3)	15 (0.4)	17 (0.4)	10 (0.2)
その他耐性	268 (5.1)	239 (5.3)	223 (5.5)	231 (5.1)	208 (4.6)
HRSEすべてに感受性	4,583 (88.0)	4,038 (88.7)	3,617 (88.5)	3,938 (87.0)	3,949 (87.5)
HR感受性その他不明	47 (0.9)	38 (0.8)	31 (0.8)	86 (1.9)	83 (1.8)

INH, RFP両剤感受性検査結果判明者を薬剤感受性検査結果判明とした。

\*: 2023年までは、新登録肺結核患者のうち結核菌培養検査での結果陽性患者数。

2024年は、新登録肺結核患者のうち治療歴なし、または治療歴不明では、結核菌培養検査またはその他の結核菌検査での結果陽性患者数と、治療歴ありでは、結核菌培養検査での結果陽性患者数を合計した数。

2024年の新登録肺結核菌陽性結核患者\* 6,423人のうち、薬剤感受性検査結果が判明した者（INH、RFP両剤感受性検査結果判明者）は4,514人で、割合は70.3%となっている。このうち、多剤耐性肺結核患者数（INH、RFP両剤耐性の者）は45人となっている。また、多剤耐性肺結核患者45人のうち、22人が外国出生患者となっている。新登録肺結核菌陽性結核患者で薬剤感受性検査結果が判明した者のうち多剤耐性結核割合は1.0%で前年から0.2ポイントの増加となっている。また、主要4剤（HRSE）全ての薬剤に対し感受性のある患者の割合は87.5%となっている。

\*: 2023年までは、新登録肺結核患者のうち結核菌培養検査での結果陽性患者。2024年は、新登録肺結核患者のうち治療歴なし、または治療歴不明では、結核菌培養検査またはその他の結核菌検査での結果陽性患者。治療歴ありでは、結核菌培養検査での結果陽性患者。

表12. 年次別 新登録結核患者の糖尿病合併あるいはHIV感染

( ( ) 内は構成比)

区分	2020年	2021年	2022年	2023年	2024年
新登録結核患者数	12,739 (100.0)	11,519 (100.0)	10,235 (100.0)	10,096 (100.0)	10,051 (100.0)
糖尿病ありの者	1,883 (14.8)	1,775 (15.4)	1,614 (15.8)	1,696 (16.8)	1,581 (15.7)
なしの者	9,117 (71.6)	8,257 (71.7)	7,122 (69.6)	7,208 (71.4)	7,182 (71.5)
不明の者	1,739 (13.7)	1,487 (12.9)	1,499 (14.6)	1,192 (11.8)	1,288 (12.8)
HIV検査実施陽性者	31 (0.2)	30 (0.3)	25 (0.2)	14 (0.1)	29 (0.3)
HIV検査実施陰性者	846 (6.6)	817 (7.1)	608 (5.9)	636 (6.3)	608 (6.0)
HIV検査未実施者	4,292 (33.7)	3,838 (33.3)	3,401 (33.2)	3,703 (36.7)	3,585 (35.7)
不明の者	7,570 (59.4)	6,834 (59.3)	6,201 (60.6)	5,743 (56.9)	5,829 (58.0)

2024年の新登録結核患者のうち、糖尿病合併患者は1,581人で、新登録結核患者の15.7%となっている。また、HIV検査を実施した患者は637人で、新登録結核患者の6.3%にあたり、このうちHIV陽性は29人で、新登録結核患者の0.3%となっている。

表13-1. 年次別 医療従事者の新登録結核患者数 (看護師・保健師)

( ( ) 内は新登録に占める割合)

	2020年	2021年	2022年	2023年	2024年
総数	123 (1.0)	116 (1.0)	113 (1.1)	91 (0.9)	108 (1.1)
15~19歳	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)
20~29歳	15 (1.5)	15 (1.6)	12 (1.5)	17 (1.6)	18 (1.4)
30~39歳	36 (5.2)	16 (2.7)	25 (5.0)	9 (1.7)	18 (3.0)
40~49歳	29 (3.9)	33 (5.2)	33 (6.0)	25 (5.1)	27 (5.8)
50~59歳	28 (3.0)	36 (4.3)	22 (3.0)	18 (2.4)	28 (3.8)
60~69歳	12 (1.0)	13 (1.2)	19 (2.1)	16 (1.9)	12 (1.5)
70~79歳	2 (0.1)	3 (0.1)	1 (0.0)	6 (0.3)	5 (0.3)
80歳以上	1 (0.0)	0 (0.0)	1 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)

2024年の新登録結核患者のうち、看護師・保健師からの登録患者は108人で、前年の91人から17人の増加となっている。新登録結核患者のうちの割合は1.1%と前年から0.2ポイントの増加となっている。年齢階級別の割合では、40~49歳が最も高く、同年齢階級新登録結核患者の5.8%となる27人の登録となっている。

表13-2. 年次別 医療従事者の新登録結核患者数（医師）

（ ）内は新登録に占める割合

	2020年	2021年	2022年	2023年	2024年
総数	33 (0.3)	27 (0.2)	20 (0.2)	24 (0.2)	20 (0.2)
20～29歳	1 (0.1)	1 (0.1)	1 (0.1)	1 (0.1)	2 (0.2)
30～39歳	7 (1.0)	5 (0.8)	2 (0.4)	2 (0.4)	3 (0.5)
40～49歳	8 (1.1)	5 (0.8)	0 (0.0)	2 (0.4)	1 (0.2)
50～59歳	4 (0.4)	5 (0.6)	4 (0.5)	3 (0.4)	0 (0.0)
60～69歳	5 (0.4)	4 (0.4)	6 (0.7)	3 (0.3)	3 (0.4)
70～79歳	5 (0.2)	3 (0.1)	4 (0.2)	8 (0.4)	6 (0.3)
80歳以上	3 (0.1)	4 (0.1)	3 (0.1)	5 (0.1)	5 (0.1)

2024年の新登録結核患者のうち、医師の登録患者は20人で、前年より4人減少となっている。新登録結核患者中の割合は0.2%となっている。20歳から79歳の各年齢階級別新登録結核患者中割合は0.0～0.5%となっている。

表13-3. 年次別 医療従事者の新登録結核患者数（その他）

（ ）内は新登録に占める割合

	2020年	2021年	2022年	2023年	2024年
総数	223 (1.8)	212 (1.8)	192 (1.9)	204 (2.0)	265 (2.6)
15～19歳	1 (1.3)	2 (2.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	7 (7.3)
20～29歳	38 (3.7)	47 (5.1)	54 (6.9)	65 (6.2)	115 (8.9)
30～39歳	51 (7.4)	38 (6.4)	29 (5.8)	33 (6.1)	33 (5.6)
40～49歳	42 (5.7)	44 (6.9)	35 (6.4)	29 (6.0)	35 (7.5)
50～59歳	46 (5.0)	35 (4.2)	34 (4.6)	47 (6.2)	36 (4.9)
60～69歳	34 (2.7)	33 (3.1)	24 (2.6)	23 (2.7)	27 (3.4)
70～79歳	10 (0.4)	11 (0.5)	15 (0.7)	4 (0.2)	7 (0.4)
80歳以上	1 (0.0)	2 (0.0)	1 (0.0)	3 (0.1)	5 (0.1)

（注）その他：理学療法士、作業療法士、検査技師、放射線技師等および介護職等、看護師・保健師・医師以外で医療機関に勤務する結核感染リスクが高いと考えられる者。

2024年の新登録結核患者のうち、理学療法士、作業療法士、検査技師、放射線技師など、看護師・保健師・医師以外の者で医療機関に勤務する者の登録患者数は265人で、前年の204人から61人の増加となり、新登録結核患者のうちの割合は2.6%となっている。年齢階級別では、20～29歳が最も多く115人で、前年の65人から50人の増加となっており、同年齢階級新登録結核患者の8.9%となっている。

表14-1. 年次別 無職臨時日雇等の新登録結核患者数

( ) 内は新登録に占める割合

	2020年	2021年	2022年	2023年	2024年
合 計	673 (19.9)	600 (19.9)	513 (20.0)	453 (16.0)	497 (16.1)
20～24歳	51 (10.1)	56 (12.5)	39 (10.6)	39 (7.5)	28 (4.1)
25～29歳	75 (14.4)	65 (13.5)	60 (14.7)	49 (9.4)	61 (9.9)
30～34歳	62 (17.2)	50 (15.9)	57 (20.7)	45 (14.3)	53 (15.1)
35～39歳	73 (22.4)	60 (21.3)	47 (20.7)	29 (12.8)	40 (16.7)
40～44歳	73 (22.2)	59 (21.5)	46 (18.3)	55 (24.7)	40 (17.5)
45～49歳	89 (21.6)	72 (19.7)	62 (21.1)	50 (18.9)	59 (24.7)
50～54歳	114 (24.6)	126 (28.2)	88 (23.7)	93 (24.1)	98 (28.4)
55～59歳	136 (29.6)	112 (28.4)	114 (31.6)	93 (24.7)	118 (30.3)

(注) 無職臨時日雇等：接客業、医療従事者、他の常用勤労者・自営業等、家事従事者、学生、その他不明を除く。合計は20歳～59歳の計。

2024年の新登録結核患者のうち、登録時の年齢が20～59歳であり、登録時の職業が無職臨時日雇等であった者は497人で、前年の453人から44人増加している。新登録結核患者のうちの割合は16.1%で前年から0.1ポイントの増加となっている。年齢階級別での患者数は、55～59歳が最も多い118人で、同年齢階級の30.3%となっている。

表14-2. 年次別 無職臨時日雇等の新登録結核患者数（男性、再掲）

( ) 内は新登録に占める割合

	2020年	2021年	2022年	2023年	2024年
合 計	334 (17.3)	306 (18.2)	265 (18.2)	244 (15.1)	261 (15.4)
20～24歳	12 (4.8)	25 (10.6)	15 (7.7)	22 (7.8)	19 (5.2)
25～29歳	42 (14.3)	30 (11.5)	21 (9.8)	25 (9.7)	25 (8.3)
30～34歳	29 (15.5)	15 (9.7)	17 (13.0)	19 (10.8)	23 (12.6)
35～39歳	29 (19.0)	19 (13.9)	17 (14.7)	19 (14.1)	15 (12.7)
40～44歳	27 (15.2)	22 (16.1)	22 (16.7)	21 (17.6)	14 (11.8)
45～49歳	48 (18.4)	38 (17.5)	33 (19.2)	25 (16.6)	34 (24.3)
50～54歳	58 (19.9)	76 (28.0)	57 (22.2)	59 (22.5)	60 (27.3)
55～59歳	89 (28.4)	81 (29.6)	83 (35.2)	54 (23.3)	71 (28.0)

(注) 無職臨時日雇等：接客業、医療従事者、他の常用勤労者・自営業等、家事従事者、学生、その他不明を除く。合計は20歳～59歳の計。

また、男性の患者に占める無職臨時日雇等の者の年齢階級別割合は55～59歳が最も高く28.0%となっており、前年からは4.7ポイントの増加となっている。

表15-1. 前年(2023年)新登録結核患者の治療成績

	総数	治療成功 (%)	死亡 (%)	失敗 (%)	脱落・中断 (%)	転出 (%)	治療中 (%)	不明 (%)
総数	10,086	6,790 (67.3)	2,533 (25.1)	4 (0.04)	182 (1.8)	193 (1.9)	368 (3.6)	16 (0.2)
0～9歳	26	20 (76.9)	1 (3.8)	0 (0.00)	1 (3.8)	0 (0.0)	4 (15.4)	0 (0.0)
10～19歳	102	87 (85.3)	0 (0.0)	0 (0.00)	1 (1.0)	9 (8.8)	5 (4.9)	0 (0.0)
20～29歳	1,045	884 (84.6)	8 (0.8)	0 (0.00)	16 (1.5)	84 (8.0)	48 (4.6)	5 (0.5)
30～39歳	541	488 (90.2)	1 (0.2)	0 (0.00)	5 (0.9)	34 (6.3)	11 (2.0)	2 (0.4)
40～49歳	486	429 (88.3)	11 (2.3)	0 (0.00)	9 (1.9)	11 (2.3)	25 (5.1)	1 (0.2)
50～59歳	760	662 (87.1)	43 (5.7)	1 (0.13)	17 (2.2)	8 (1.1)	29 (3.8)	0 (0.0)
60～69歳	863	701 (81.2)	99 (11.5)	0 (0.00)	12 (1.4)	12 (1.4)	36 (4.2)	3 (0.3)
70～79歳	1,941	1,369 (70.5)	453 (23.3)	0 (0.00)	37 (1.9)	9 (0.5)	72 (3.7)	1 (0.1)
80～89歳	2,912	1,626 (55.8)	1,110 (38.1)	2 (0.07)	58 (2.0)	13 (0.4)	99 (3.4)	4 (0.1)
90歳以上	1,410	524 (37.2)	807 (57.2)	1 (0.07)	26 (1.8)	13 (0.9)	39 (2.8)	0 (0.0)

2023年の新登録結核患者の2024年末での治療成績は、治療成功が67.3%、死亡25.1%、失敗0.04%、脱落・中断1.8%、転出1.9%、治療中3.6%、不明0.2%となっている。60歳以上から年齢階級の上昇にともなって死亡割合が増加し、60～69歳で11.5%、70～79歳で23.3%、80～89歳で38.1%、90歳以上で57.2%となっている。死亡の影響が少ない59歳以下の年齢階級の治療成功割合は76.9%～90.2%となっている。脱落・中断は、患者数が少ない0～9歳で1人3.8%となっているが、これ以外では、50～59歳で最も高く2.2%となっている。

表15-2. (再掲)前年(2023年)新登録再治療結核患者の治療成績

	総数	治療成功 (%)	死亡 (%)	失敗 (%)	脱落・中断 (%)	転出 (%)	治療中 (%)	不明 (%)
総数	428	306 (71.5)	81 (18.9)	0 (0.0)	11 (2.6)	12 (2.8)	18 (4.2)	0 (0.0)
0～9歳	0	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -
10～19歳	5	4 (80.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (20.0)	0 (0.0)
20～29歳	42	34 (81.0)	1 (2.4)	0 (0.0)	1 (2.4)	5 (11.9)	1 (2.4)	0 (0.0)
30～39歳	27	22 (81.5)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (3.7)	2 (7.4)	2 (7.4)	0 (0.0)
40～49歳	18	14 (77.8)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (5.6)	0 (0.0)	3 (16.7)	0 (0.0)
50～59歳	46	41 (89.1)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (2.2)	1 (2.2)	3 (6.5)	0 (0.0)
60～69歳	48	37 (77.1)	8 (16.7)	0 (0.0)	1 (2.1)	1 (2.1)	1 (2.1)	0 (0.0)
70～79歳	82	63 (76.8)	14 (17.1)	0 (0.0)	1 (1.2)	1 (1.2)	3 (3.7)	0 (0.0)
80～89歳	114	71 (62.3)	35 (30.7)	0 (0.0)	4 (3.5)	0 (0.0)	4 (3.5)	0 (0.0)
90歳以上	46	20 (43.5)	23 (50.0)	0 (0.0)	1 (2.2)	2 (4.3)	0 (0.0)	0 (0.0)

2023年の新登録再治療結核患者の2024年末での治療成績は、治療成功が71.5%、死亡18.9%、失敗0.0%、脱落・中断2.6%、転出2.8%、治療中4.2%、不明0.0%となっている。

表15-3. 前年(2023年)新登録潜在性結核感染症(LTBI)治療開始者の治療成績

	総数	治療完了 (%)	死亡 (%)	失敗 (%)	脱落・中断 (%)	転出 (%)	治療中 (%)	不明 (%)
総数	4,956	4,275 (86.3)	166 (3.3)	12 (0.2)	347 (7.0)	40 (0.8)	109 (2.2)	7 (0.1)
0～9歳	315	301 (95.6)	0 (0.0)	0 (0.0)	4 (1.3)	2 (0.6)	7 (2.2)	1 (0.3)
10～19歳	103	101 (98.1)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (1.0)	1 (1.0)
20～29歳	646	582 (90.1)	0 (0.0)	5 (0.8)	23 (3.6)	19 (2.9)	16 (2.5)	1 (0.2)
30～39歳	390	335 (85.9)	2 (0.5)	1 (0.3)	32 (8.2)	12 (3.1)	7 (1.8)	1 (0.3)
40～49歳	431	381 (88.4)	1 (0.2)	0 (0.0)	35 (8.1)	0 (0.0)	14 (3.2)	0 (0.0)
50～59歳	624	557 (89.3)	2 (0.3)	1 (0.2)	53 (8.5)	2 (0.3)	9 (1.4)	0 (0.0)
60～69歳	639	555 (86.9)	16 (2.5)	2 (0.3)	54 (8.5)	1 (0.2)	11 (1.7)	0 (0.0)
70～79歳	963	808 (83.9)	58 (6.0)	2 (0.2)	70 (7.3)	1 (0.1)	22 (2.3)	2 (0.2)
80～89歳	689	549 (79.7)	59 (8.6)	1 (0.1)	58 (8.4)	2 (0.3)	19 (2.8)	1 (0.1)
90歳以上	156	106 (67.9)	28 (17.9)	0 (0.0)	18 (11.5)	1 (0.6)	3 (1.9)	0 (0.0)

2023年の潜在性結核感染症新登録者のうち治療を開始した者の2024年末での治療完了率は86.3%となっている。脱落・中断は7.0%となっているが、30歳以上で高くなる傾向がみられており、90歳以上では11.5%となっている。

表15-4. 前々年(2022年)新登録結核患者で多剤耐性の者の治療成績

	総数	治療成功 (%)	死亡 (%)	失敗 (%)	脱落・中断 (%)	転出 (%)	治療中 (%)	不明 (%)
総数	37	22 (59.5)	6 (16.2)	0 (0.0)	1 (2.7)	8 (21.6)	0 (0.0)	0 (0.0)

(注) 表15-1～表15-4: 2024年末までの治療成績

2022年の新登録結核患者で多剤耐性結核患者の2024年末での治療成績は、対象37人のうち治療成功59.5%、死亡16.2%、失敗0.0%、脱落・中断2.7%、転出21.6%、治療中0.0%、不明0.0%となっている。